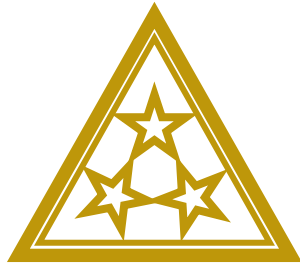




**平成23年3月期第2四半期
決算説明会**

株式会社 中山製鋼所
NAKAYAMA STEEL WORKS,LTD.

平成22年11月18日

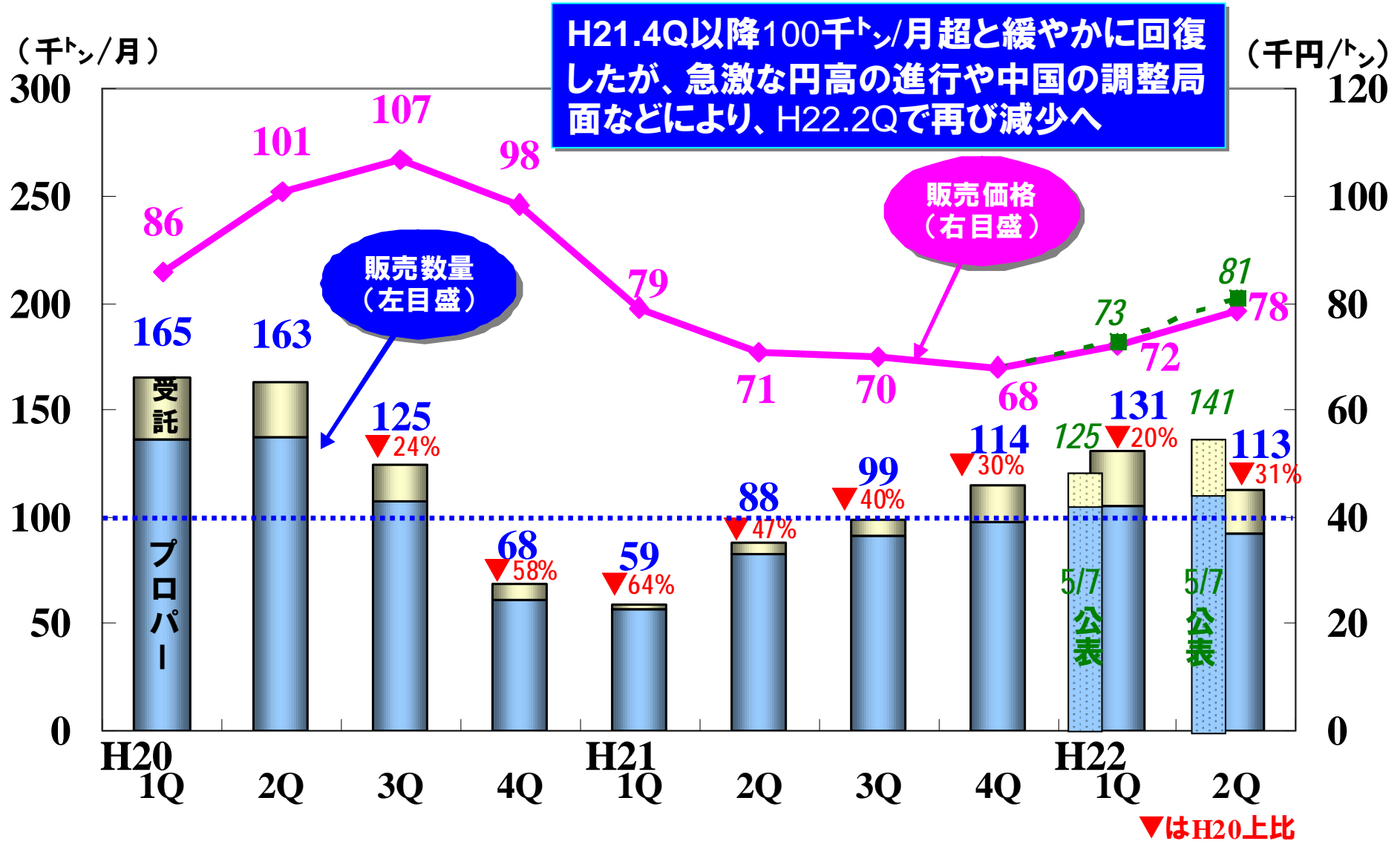


平成22年度上期 業績について P. 1～P. 5

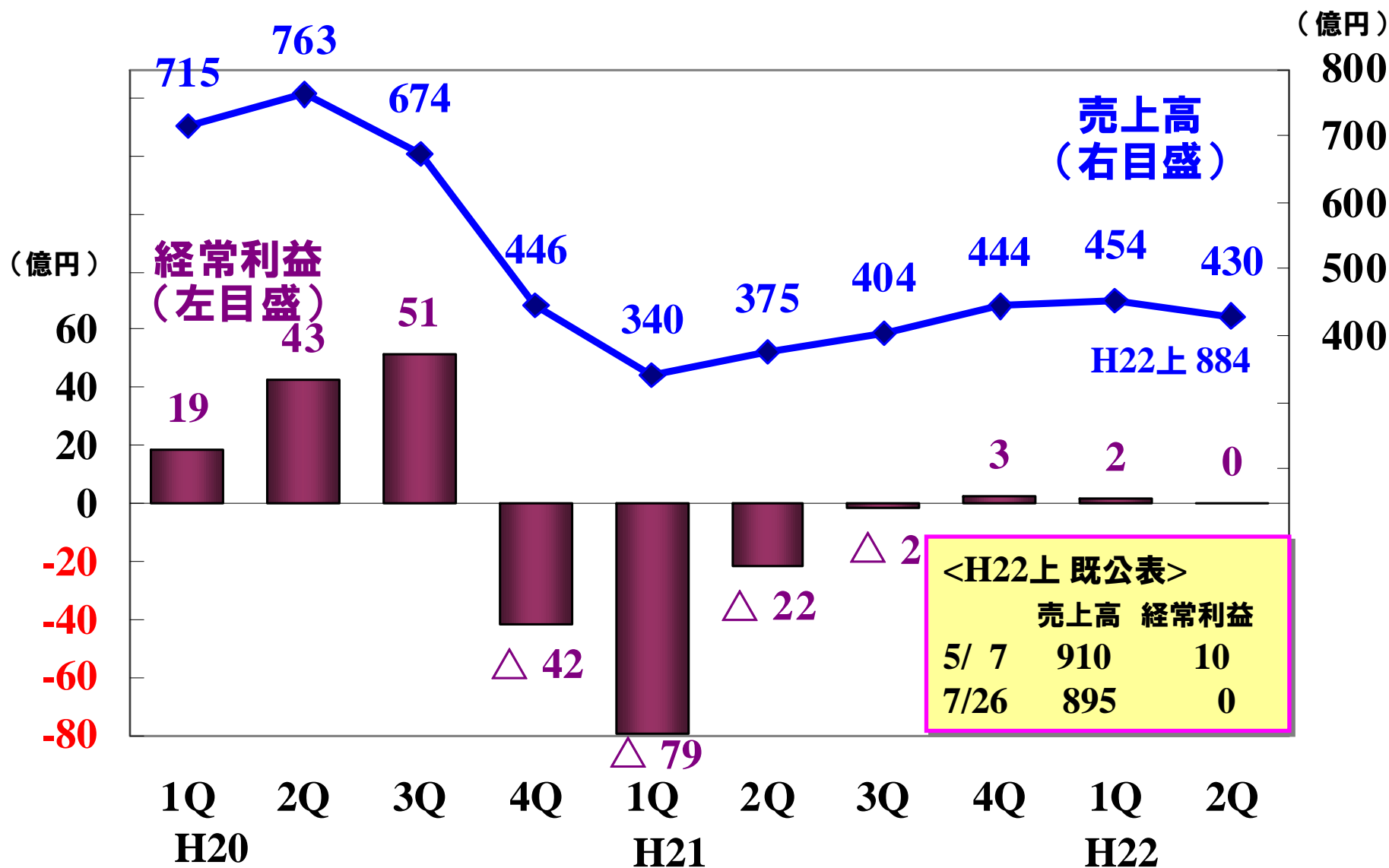
平成22年度 業績見通しについて P. 6～P. 8

**鉄鋼事業 構造改革の進捗状況と
今後の課題について** P. 9～P.12

1. <単独>鋼材販売数量と販売価格の推移



2. 連結売上高、経常利益の四半期推移



3. H22年度上期 連結業績

(単位:億円)

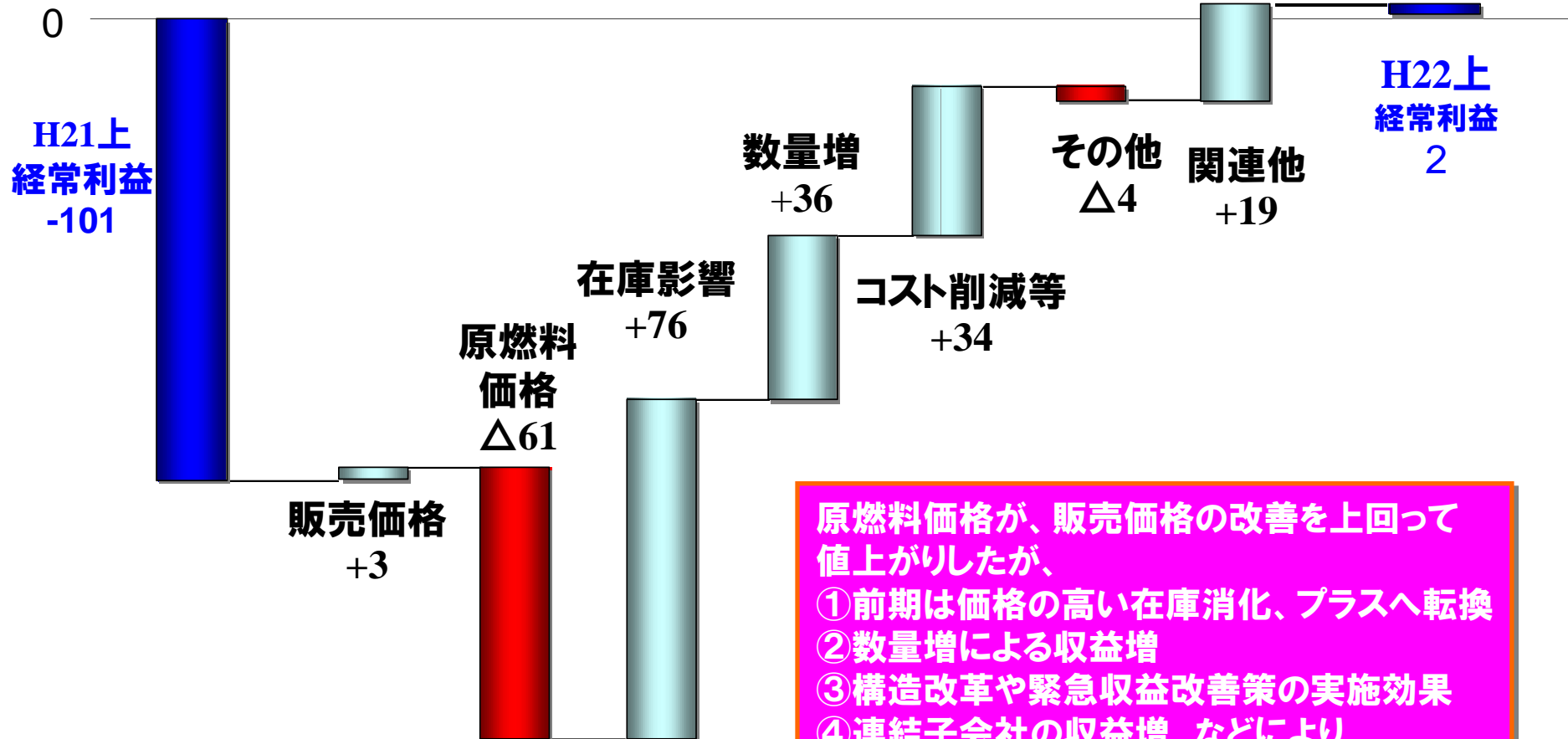


	H21上 ①	H22上 ②	増減 ②-①	増減要因
売上高	715	884	+168 <+24%>	主に鋼材販売量の増加
営業利益	△ 93	13	+106	
鉄鋼	△ 96	7	+103	【特別損益】 <H21上> △92 ・名古屋道路補償等 20 ・構造改革引当 △100 ・減損損失ほか △12 <H22上> △12 ・名古屋土地売却等 2 ・特別退職金ほか 構造改革費用 △10 ・資産除去債務 △2 ・固定資産除却損 △2
エンジ	△ 1	0	+1	
不動産	2	1	△ 0	
化学	3	4	+2	
経常利益	△ 101	2	+103	
特別損益	△ 92	△ 12	+81	
当期純利益	△ 189	△ 18	+172	

4. 連結経常利益《前年同期比》



(単位:億円)



原燃料価格が、販売価格の改善を上回って値上がりしたが、

- ①前期は価格の高い在庫消化、プラスへ転換
- ②数量増による収益増
- ③構造改革や緊急収益改善策の実施効果
- ④連結子会社の収益増 などにより、

経常利益は、大幅に改善し黒字に回復した。

<当社鋼材販売>

	H21上	H22上	増減
販売量(千トン)	441	733	+292
販売価格(千円/トン)	74	75	+1

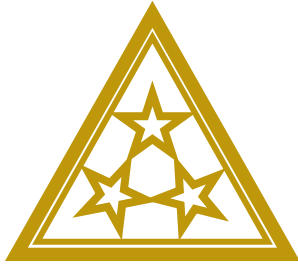
5. 連結 貸借対照表

(億円)



科目	H22.9末		増減 要因
	実績	前期末 (3月)比	
流動資産	868	+15	
現預金	169	△5	
売掛債権	348	△3	
棚卸資産	325	+19	
その他	26	+3	
固定資産	1,353	△75	<有形・無形> 除却 △65 (構造改革△64) 償却 △39 設備投資 +36 ほか
有形・無形	1,264	△73	
投資 他	88	△2	
資産合計	2,221	△60	

科目	H22.9末		増減 要因
	実績	前期末 (3月)比	
負債	1,582	△38	
買掛債務	263	+0	
借入金	982	+45	長期増
繰延税金負債	199	△1	
諸引当金	69	△78	
事業構造 改善引当金	24	△74	鉄鋼事業 構造改革
その他	70	△5	
株主資本	274	△17	当期 純利益 △18
評価・換算差額等	175	△9	
少数株主持分	189	+4	
純資産 合計	638	△22	
負債純資産合計	2,221	△60	

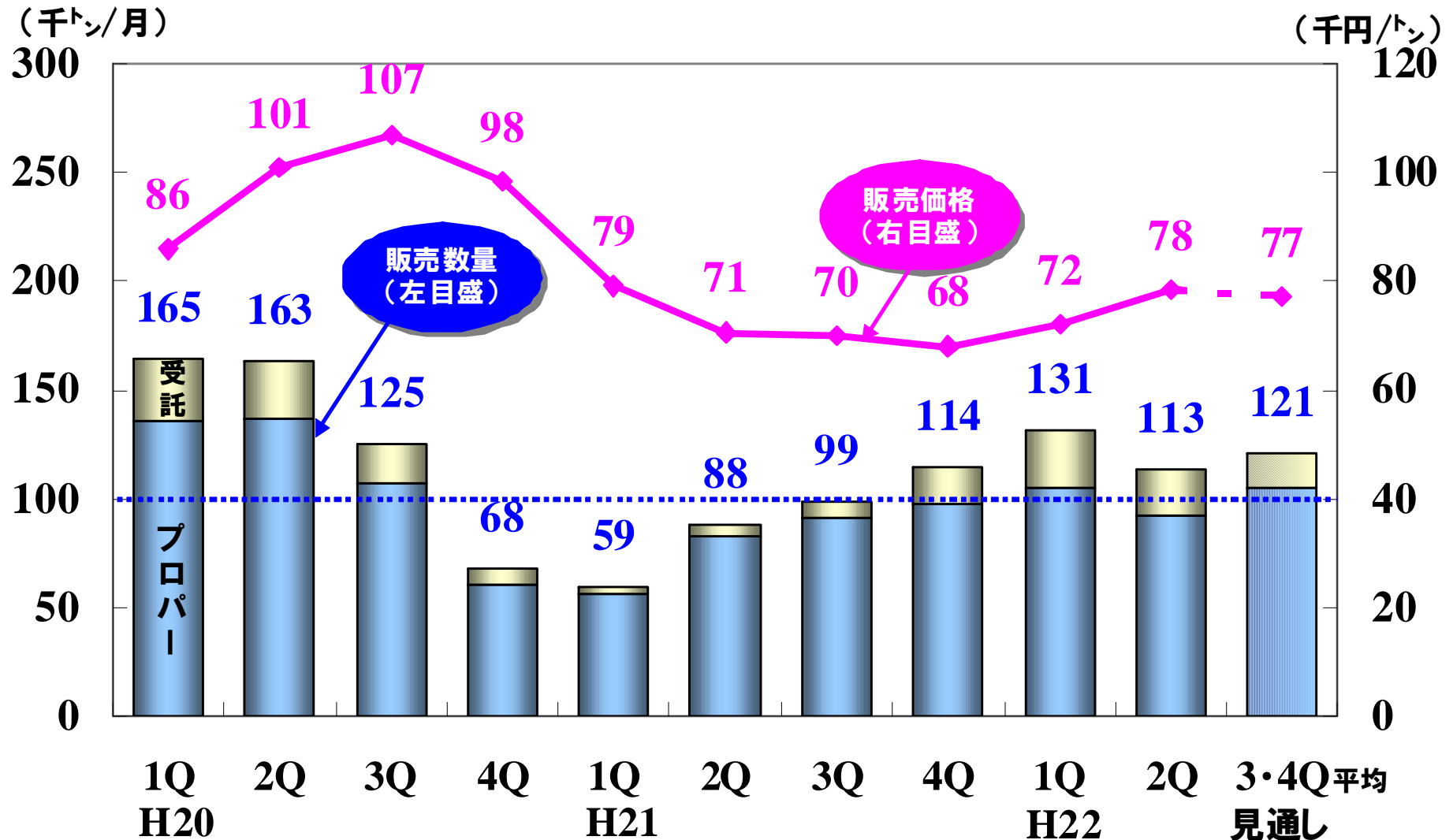


平成22年度上期 業績について P. 1～P. 5

平成22年度 業績見通しについて P. 6～P. 8

**鉄鋼事業 構造改革の進捗状況と
今後の課題について** P. 9～P.12

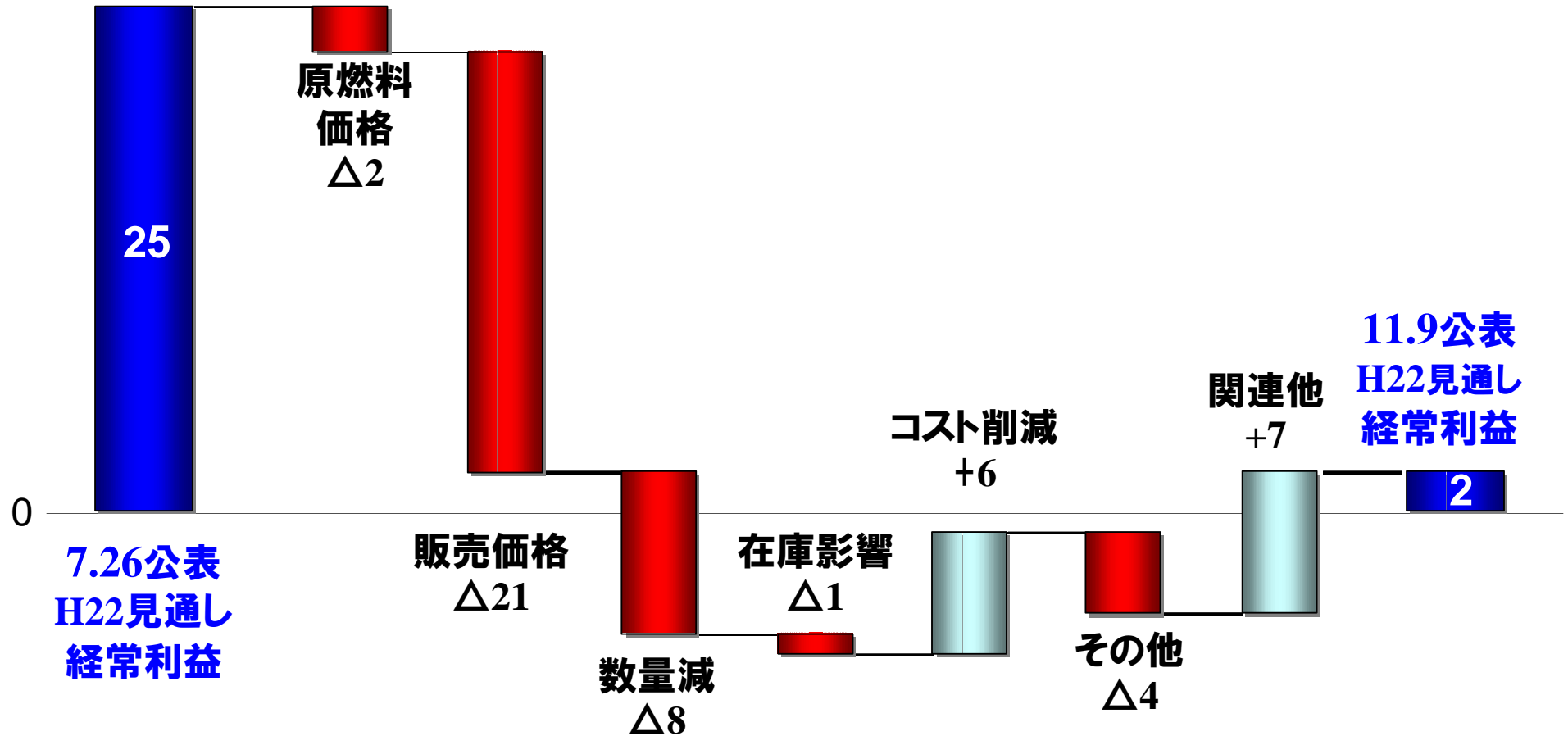
6. <単独>鋼材販売数量と販売価格の推移



7.連結経常利益 《H22見通し 7.26公表と11.9公表 比較》



(単位:億円)



<当社鋼材販売>

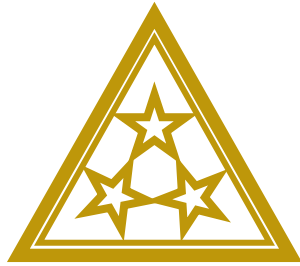
	7.26公表	11.9公表	増減
販売量(千トﾝ)	1,532	1,457	△75
販売価格(千円/トﾝ)	77.5	76.0	△1.5

8. 連結業績～H22年度見通し



(億円)

	H21 年度 ①	H22見通し			増減 年度 ②-①	増減理由
		上期	下期	年度 ②		
売上高	1,563	884	896	1,780	217 <14%>	うち、当社 +241 鋼材販売数量増 +277 (H21 1,081千トﾝ) (H22 1,457千トﾝ) 鋼材販売価上昇 +65 (H21平均 71千円/トﾝ) (H22平均 76千円/トﾝ) コークス売上減 Δ85
営業利益	△ 85	12	15	27	112	
鉄鋼	△ 99	7	4	11	110	
エンジ	2	0	2	2	△ 0	
不動産	3	1	1	2	△ 1	
化学	10	4	8	12	2	【特別損益】 H21年度 Δ93 ・名古屋道路補償等 22 ・構造改革引当 Δ98 ・減損損失ほか Δ17 H22年度 Δ10 ・土地売却等 4 ・構造改革費用 Δ11 ・資産除去債務他 Δ3
経常利益	△ 100	2	0	2	102	
特別損益	△ 93	△ 12	2	△ 10	83	
当期純利益	△ 197	△ 18	△ 7	△ 25	172	



平成22年度上期 業績について P. 1～P. 5

平成22年度 業績見通しについて P. 6～P. 8

**鉄鋼事業 構造改革の進捗状況と
今後の課題について** P. 9～P.12

9. 構造改革 設備休止の進捗状況



内容

(1) 転炉工場(NSR)の休止

H22.5.6 実施

Nakayama Scrap melting Refining process: 棒線向け高炉代替鉄源

(2) コークス工場の休止

H22.5.19 実施

1ヶ月以上
前倒し

(3) エネルギー供給体制の再構築

H22.5.19 実施

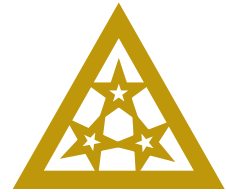
酸素発生装置はH22.11 実施

(4) 要員配置の効率化

希望退職者募集
H22.5.20～H22.5.28 実施
57名応募

費用

事業構造改善引当金(設備・貯蔵品除却、解体費など)98億円のうち、
74億円を取崩し(解体費等未消化24億円)
特別退職金6億円と引当金対象外5億円を特別損失に計上

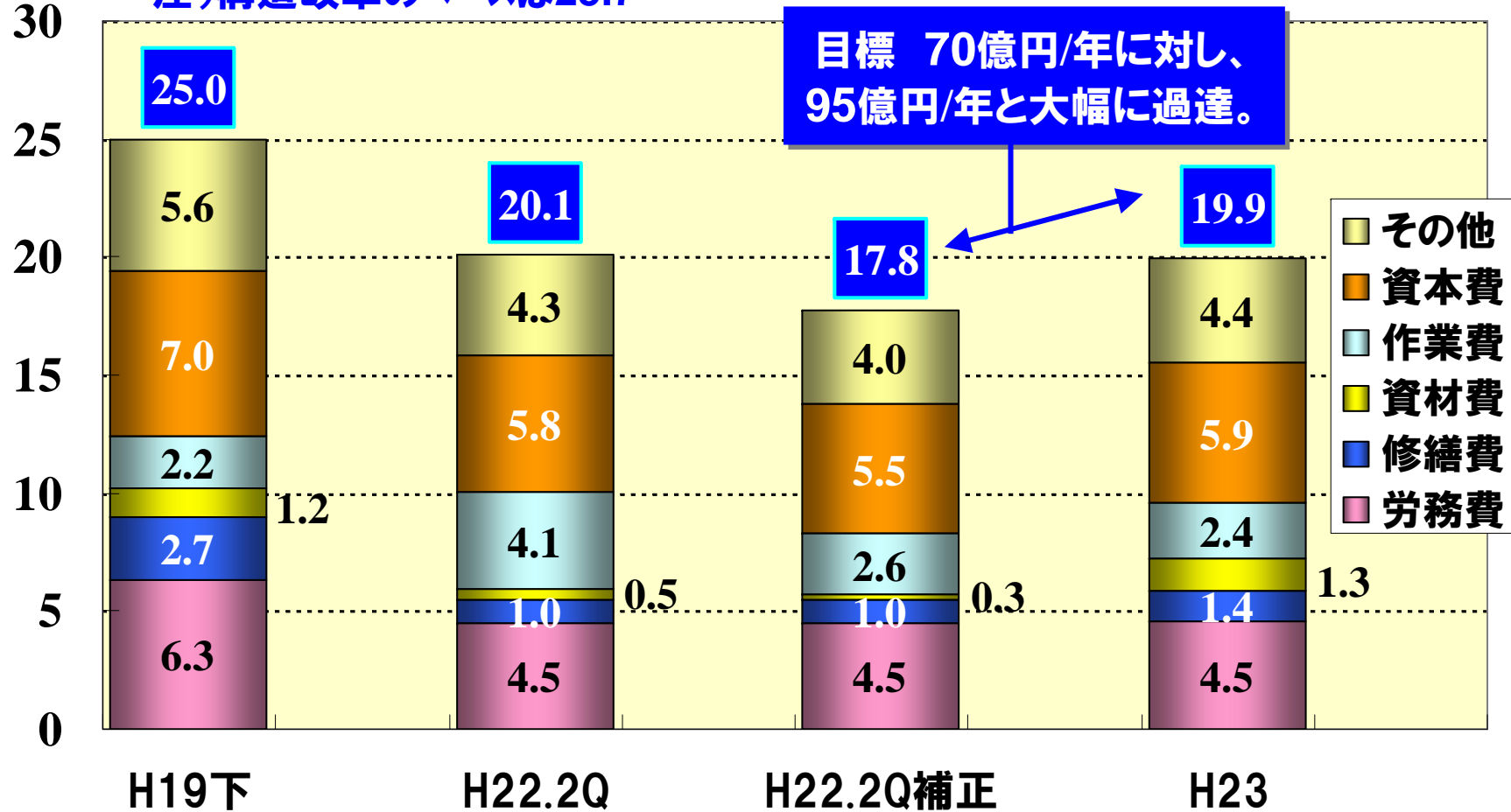


10. 構造改革による固定費削減

(億円/月)

注) 構造改革のベースは25.7

★緊急収益改善を含む



目標 70億円/年に対し、
95億円/年と大幅に過達。

人員
削減

<単体:従業員数>在籍ベース

H22.9末 771名 (H21.4比 △168名)

H21.4~H22.9 新規出向33名、直営化11名

実質 合計△212名

11. 今後の課題～当社の特長を生かす施策展開



1) 高品質材・難製造材への対応

〈薄手、ハイテン、高炭素鋼板(ハイカーボン)など〉

- ・ 6月導入のエッジヒーター効果発揮、活用推進
- ・ 10月圧延直後冷却装置の新設による一層の細粒化
⇒既導入のコイルボックスと合わせ、
薄手、ハイテンや高炭素鋼板だけでなく、
低炭素鋼板の安定製造が可能に

2) 電気炉適用鋼種・品種の拡大

3) 短工期・短納期の推進

4) グループインフラの活用

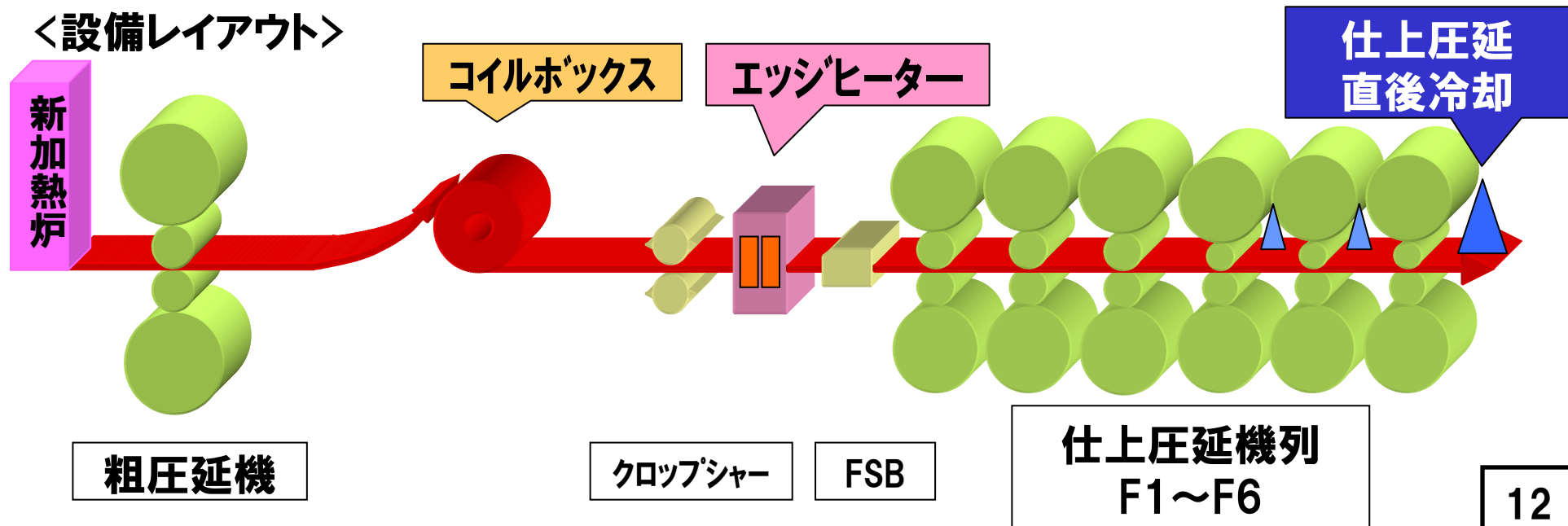
11- (1). 高品質材・難製造材への対応

<熱延ミルの特長>



主な設備	効果
1.新加熱炉	コイル単重Max25トン・傾斜加熱
2.コンパクトミル	熱延温度適用範囲大
3.コイルボックス	熱延板長手方向温度・品質安定
4.エッジヒーター	熱延板幅端部温度・品質安定
5.異径片駆動圧延	薄物材通板の安定・圧延負荷低下
6.仕上圧延直後冷却	結晶粒微細化

<設備レイアウト>





**平成23年3月期第2四半期
決算説明会**

株式会社 中山製鋼所
NAKAYAMA STEEL WORKS,LTD.

平成22年11月18日